



ツキノワグマによる 被害防止のために

人とツキノワグマの緊張状態のある
共存関係を目指して

県では富山県ツキノワグマ管理計画を策定し、本県における地域個体群の長期的にわたる安定的な維持及び人身被害の防止並びに農林業被害の軽減を図り、「人とツキノワグマ（以下：クマ）の緊張状態のある共存関係」をはかることを目的としています。

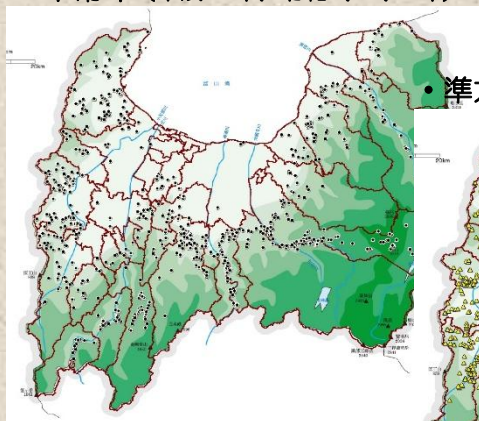
県内の出没状況

県内の山林に生息してるクマ

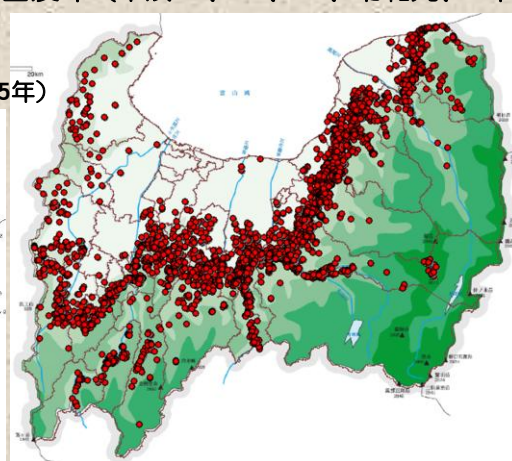
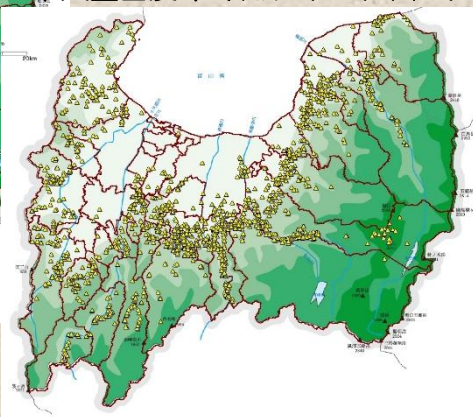
富山県の東部から西部にかけての山林に生息しており、林縁部などでも情報があります。特に、人が山林などクマの生息域に入る場合、クマに対する準備が必要になります。また、秋期に堅果類などの実りがいい年はクマの出没が少ない（平常年）のですが、悪い年（準大量出没年）やかなり悪い年（大量出没年）は平野部までクマが出没することがあり、そのような年は特に注意が必要です。

・平常年（平成30年、令和3、4、6年）

・大量出没年（平成16、18、22、令和元、7年）



・準大量出没年（平成26、28、令和2、5年）



季節による出没状況

季節ごとの注意点

クマは冬眠中に子を出産します。子連れのクマには特に注意が必要です。ゴールデンウィーク前後などに子育て中の親熊に襲われる事故が発生しています。また、初夏から夏期にかけ、クマの交尾期やまとまった採餌物の採りにくい端境期などにより通常クマが出没しない地域に出没することもあります。



秋期については、堅果類（ブナ、ミズナラなど）の凶作年は平野部へクマが出没する年があります。県では毎年、豊凶調査の結果から出没予測をしています。

人家周辺でのクマの目撃・痕跡

痕跡を見逃さない

平野部や人家周辺では最初を目撃情報などを早く地域住民に伝え、状況により屋内へ避難してもらう必要があります。また、秋期の堅果類の凶作年は、地域によってはクマが人家やその周辺に出没し、カキノキ（以下：カキ）の実を採餌することが多く、各地域でカキの実がクマの誘引物となっています。その他、クリやギンナンの実を採餌するため、出没することもあります。クマが来たカキの木には爪痕やクマ棚が残り、その周辺に糞や足跡などの痕跡が確認されることがあります。そのため、カキの木など不要木の伐採や誘引物の除去を徹底するようにしてください（誘引物がある限り、何度も出没することがあります）。



畑に残るクマの足跡

クマの糞

クマの爪痕

カキの木に残るクマ棚

誘引物(カキなど)の除去や不用木の伐採の徹底を！

季節ごとの注意点～春期編～ クマに対する備え

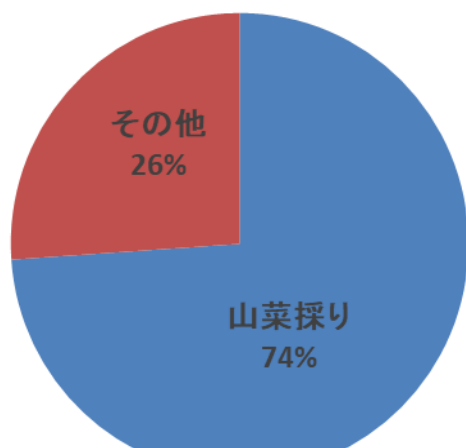
山菜採りの方は特に注意が必要！

山菜採りで、人がクマの生息地（山林）に入る時期であり、特にゴールデンウィーク期間中やその前後などでクマによる人身被害が多い。山菜採りの方は道なきところを山菜を求めて歩くため、偶発的にクマと出会う可能性があります。また、子連れのクマの場合、鈴やラジオを鳴らしていても、襲われている事例もあるため、人がクマに対する準備をする必要があります。

鈴やラジオなどを鳴らすことはもちろん、クマ撃退用のスプレーの携行や頭部や顔面を守るためのヘルメットの着用、非常用にナタなどの携行もあればいいと思われます。また、もしものために複数人で行動するようにしてください。

なお、4月下旬や5月中・下旬にも平野部へのクマの出没事例があり、注意が必要です。

注意 令和8年4月下旬、令和2～3年、6年などの5月中旬～下旬に平野部までクマが出没する事例が発生（若いオス個体など）しました。平野部でのクマの出没時は、第一報を早く地域住民の方へお伝えし、すぐに屋内避難していただくことが重要です。



クマによる人身被害の原因
(昭和59～令和7年：4～5月 n=23)



クマに対する備え

季節ごとの注意点～夏期編～ 河畔林や河岸段丘の林を移動

やや予想を超えた地域（河畔林や河岸段丘の林など）に出没することも！

初夏から夏期にかけ、クマの繁殖期やまとまった採餌物の採りにくい端境期などで、通常クマが出没しない地域に出没することがあります。河川敷のヤブや河畔林や河岸段丘林などを移動し、より低標高地域へ出没することがあり、近隣の新しいクマの目撃・痕跡情報の把握に努めてください。第一報をいかに早く地域住民へ伝え、住民を早く屋内へ誘導するかが重要です。また、電気柵や恒久柵の設置により、移動経路の分断（山際も含めて）などを検討しましょう。人家のある林縁部なども見通しのいい生息環境管理（緩衝帯）も合わせて進める必要があります。その他、夏期にはミツバチの巣がクマの誘引物となることもあり、ミツバチの巣のある山際の人家などでは早めの対策が必要です。なお、7月下旬に平野部へ出没し、スイカやモモを採食する事例もありました。農作物（トウモロコシ・ブドウなども）の管理（電気柵の設置）も徹底してください。



河川敷のヤブや河畔林などを移動



河岸段丘の林などを移動



山際や移動経路の分断に電気柵や恒久柵の設置

季節ごとの注意点～秋期編～ クマの大量出没年は注意！

秋期は堅果類の豊凶によりクマの出没状況が異なるが、誘引物の除去の徹底を！

秋期は堅果類の豊凶の影響を受け、クマが平野部まで出没する年があります。特に、ブナとミズナラが同調的に凶作の年は人家周辺までクマが出没し、クマによる人身被害が増加します。クマの大量出没年は庭にあるカキの実の早めの除去・伐採を徹底し、人とクマとの遭遇を減らす必要があります。なお、人里でのカキの実などの誘引物の除去の順番は、まず家の庭にある木、集落内の木そして周辺の農耕地にある木の順に作業するようにします。また、そのような年は玄関先でも注意が必要であり、外出時は周囲を確認してから外に出るようにしてください。あわせて農作物（クリ・カキ・リンゴ・ギンナンなど）の管理（電気柵の設置）も徹底してください。



ブナの実



ミズナラの実

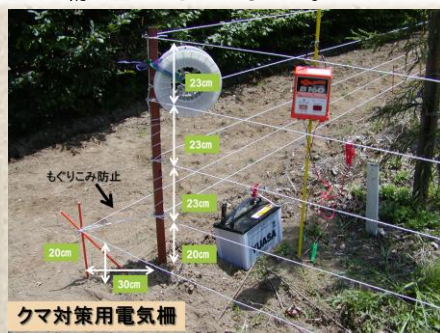


近年、里山地域でもクマの生息が確認されていることから、山際の集落ではクマの情報に注意すると共に、誘引物の除去に取り組んでください。

早めにカキの実の除去や不用木の伐採の徹底を！太い木は一度、伐採してください。

クマとの偶発的な遭遇を減らす できることから取り組む

県内では、特にクマの大量出没年の秋期に河川敷や河岸段丘崖の林などを移動し、より平野部へ出没する事例が増加します。そのような年はもちろんですが、普段から計画的にクマとの偶発的な遭遇を減らすために、屋敷林や人家周辺のヤブなどを減らすことが必要です。また、誘引物（カキの実）の除去の徹底もあわせて行いましょう。納屋や車庫の戸締りも徹底しましょう。それから、積極的に電気柵や恒久柵（電気柵併用）を設置し、山際からの出没の低減や河岸段丘崖林の移動の分断を目指しましょう。あわせて、ゴミなどの管理も徹底しましょう。



人家周辺や敷地内はヤブを減らし見通しのいい環境作りを！

農作物は電気柵で守る！

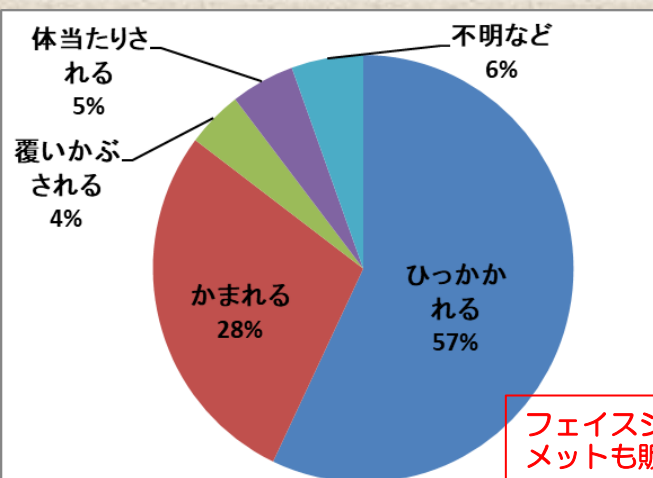
山際や移動経路の分断に電気柵や恒久柵（電気柵併用）の設置

クマによる人身被害の発生状況 県内の事例より

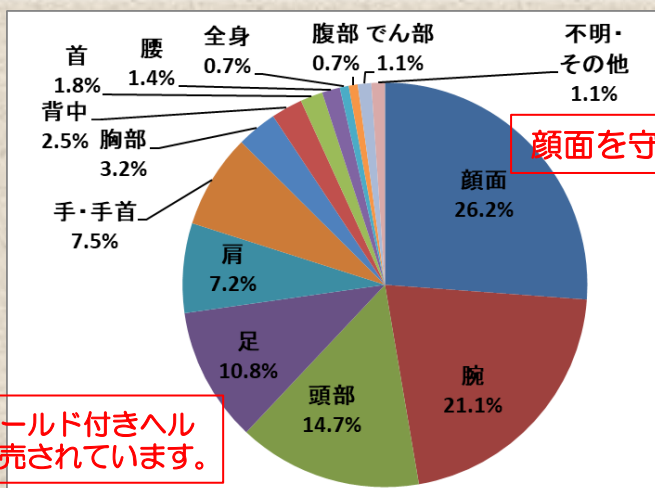
県内のクマによる人身被害の事例から分析すると、人身事故の発生した時期や時間、場所などは下記のような状況です。

- ・人身被害の発生時期は10～11月が多くなります。これは、クマの大量出没年の秋期に多く人身被害が発生していることが影響しています。ただ、通常は山菜採りの方がクマに襲われることが多く、5月に多く発生しています。平野部へのクマの出没時は車内・屋内避難の徹底。
- ・人身被害の発生時間帯は春期～夏期にかけては午前中、秋期は午前中でも早朝にも多く発生しています。多くのクマが出没する年は日中も人身事故が発生することがあります。
- ・多くは山林で人身被害が発生していますが、クマの大量出没年の秋期は人家や田畑などで被害が発生しているほか、100m以下の低標高でも多く被害が発生しています。

もしものために、野外ではできるだけ1人で行動せず、2人以上の複数人で活動してください。



県内でのクマの攻撃方法（昭和45～令和7年 n=147）



県内でのクマの攻撃部位（昭和45～令和7年 n=147）

フェイスシールド付きヘルメットも販売されています。

顔面を守る！

クマを避ける配慮と同時に、遭遇した際に被害を小さくする備えをする必要があります。過去の事例から、顔面や頭部などへの攻撃が多いため、ヘルメットを着用するなど、被害の低減に努める必要があります。また、襲われる瞬間は防御姿勢（頭をさげしゃがみ、顔面を守る。うつ伏せになり腕などで首筋を守る）をとり、顔面などに攻撃を受けないよう注意してください。その他、クマ撃退スプレーを携帯するなど、より積極的な防御が必要です。（子連れの場合、鈴やラジオを携帯していても、襲われた事例があるため。）